

学術俯瞰講義2008 「心に挑む」

ライフストーリーを 聴き取る

大学院教育学研究科

臨床心理学コース

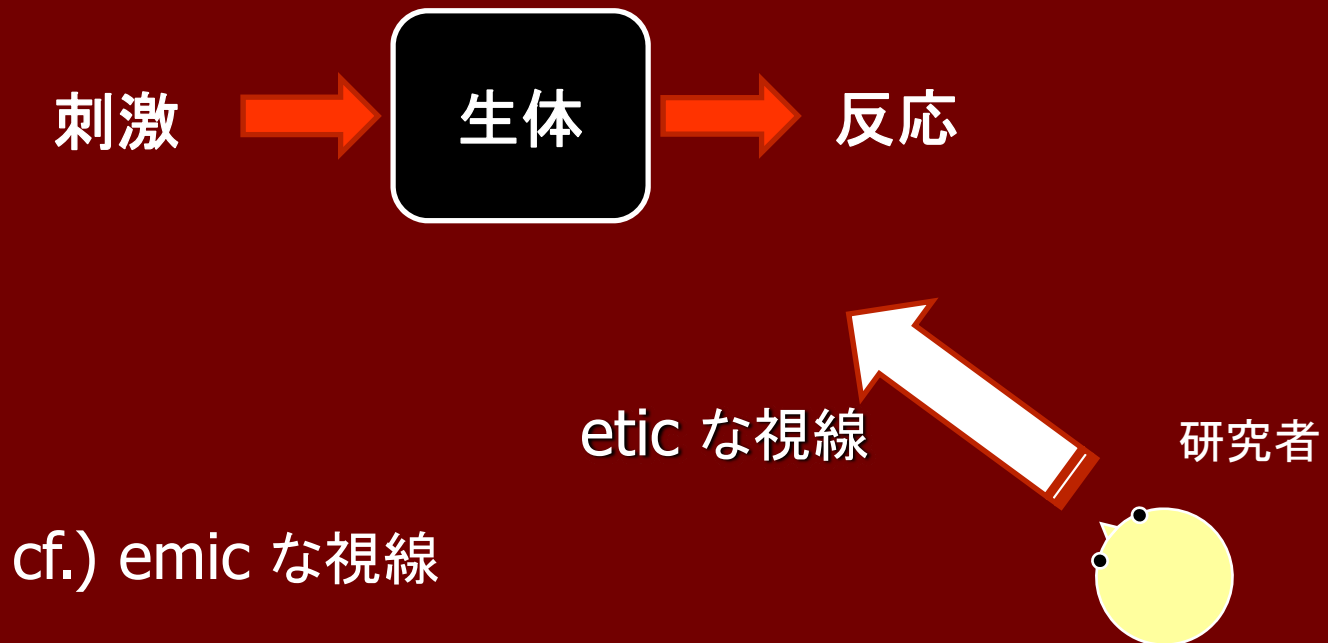
能智 正博

※:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

人間の理解の方法

■ 自然科学的な心理学

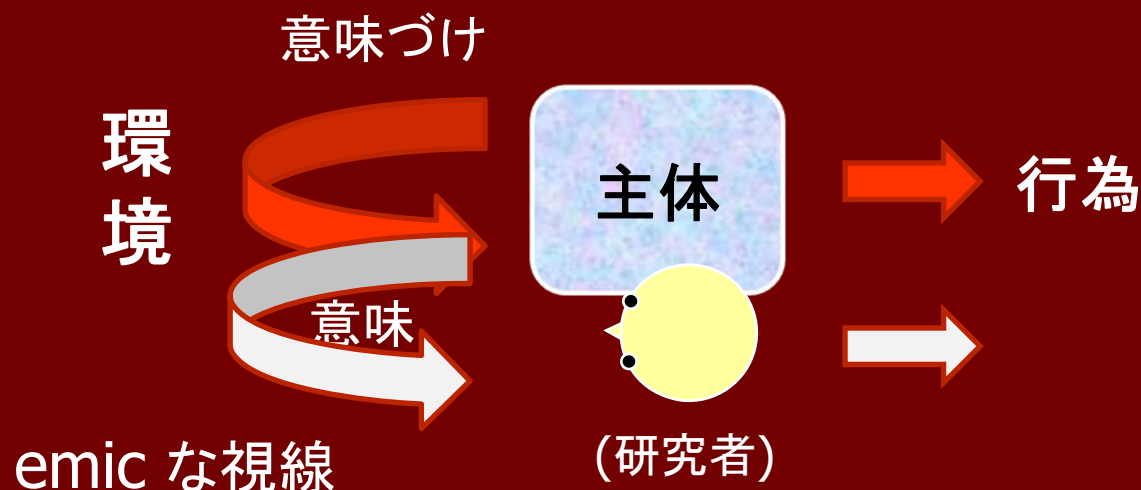
刺激-反応関係の客観的な理解



人間の理解の方法

■ 日常生活／心理臨床実践

客観的な理解に加えて、主体の意味づけを大事にした
内側からの理解を試みる



意味づけとは

■ 意味づけの基本的形式

A

を

B

とみなす



〈腕時計〉

〈高価なアクセサリ〉

＋ 〈個人的な宝物〉

ライフストーリーとは何か

■ ライフ

生＝人生、生活、生命、etc.

■ ライフストーリー

自分の生に対する意味づけを反映した言葉による織物

■ ストーリー

- ・具体的な概念が登場する
- ・概念間につながりが見られる
- ・全体的なまとまりが見られる

ライフストーリーの機能

著作権処理の都合で、この場所に挿入されていた画像を省略させていただきます。

ライフストーリーの機能

■ 千(千尋)からハクへの言葉

「その川はもうマンションになっちゃって、埋められちゃったんだって。でも今思い出したの。その川はね、コハク川。あなたの本当の名はコハク川。」

■ 名前を与えられることの意味

- － その川の場合
- － その川の歴史 (コ 千尋(他者)との関わり)
 - 空白だった自分にストーリーが与えられた
＝アイデンティティ

ストーリーとしてのアイデンティティ

■ アイデンティティ(自我同一性)

自分とは何者か、どういう意味で自分であるのか

■ アイデンティティというストーリーを支えるもの

過去・現在の経験

将来の展望

他者から与えられるストーリー

■ ストーリーの喪失

=アイデンティティの危機

ライフストーリー研究とは

■ ライフストーリー研究の全般的定義

個人が主観において作り上げる、自分の人生、生活、生き方等に関するストーリー(物語)の内容や機能について、特にその個人の語りを素材に、質的に検討する研究分野

■ ライフストーリー研究のテーマ

特定の人々のライフストーリーの特徴は？

ライフストーリーはどのような条件で危機になるのか？

ライフストーリーはどのように回復されるのか？

脳外傷とは

- 脳外傷: 外部からの衝撃による脳損傷
＝交通事故、スポーツ事故、犯罪被害、etc.
- 主な症状
 - － 身体症状
 - － 高次脳機能障害
 - 記憶が低下する
 - 注意が持続しない
 - 段取りができない
 - 感情のコントロールができない

事例「脳外傷者におけるライフストーリー」

■ 研究協力者(男8, 女2)

24～54歳、受傷後3～28年

8名交通事故、1名転落、1名スポーツ事故

脳外傷者であることの理解、言語能力の維持

退院後1年以上で、地域社会に住んでいる

■ 手続き

日常場面の観察記録

半構造化面接 30～60分を2～3回



質的分析

「異常」のイメージの感知

■ “TBI” (traumatic brain injury) への警戒

俺はTBIって用語は好きじゃないね。烙印を押されてしまうような気になるんだ。肩書きみたいなものかな。人はその肩書きの意味を知って、TBIをもつすべての人間を判断する。...俺にはTBIがある。その言葉に突き当たると、人は俺という人間をそれ以上知ろうとするのをやめてしまうんだ。(30代男性)

「脳の損傷」に伴うイメージ

→ “foolish”, “crazy” = 異常性

「異常」のイメージへの対処

■ “Retarded”、“Mentally ill”との区別

（その知り合いは会う人ごとに誰にでも挨拶してまわることがあるが）彼の行動は、知恵遅れretardedや精神病mentally illの人とは全然違うね。彼の行為には論理があるよ。可笑しいことはやるが、でも我々に理解できない感情が出てくることはないしね。（40代男性）

→ 脳損傷と「知恵遅れ」、「精神病」との間に差異化を試みる

「無能力」のイメージへの対処

■ “Dis-abled” へのとまどい

私は何かできないことの言い訳にその言葉(disabled)を使いたくはないね。何ができるのかできないのか、はっきりさせなくちゃだめだよ。障害とか何とかのせいにするってのは、私のスタイルじゃないね。(40代男性)

“disabled” → 無能力さ、虚弱さのイメージ
年金を受け取る時などに戦略的に利用

ポジティブな言葉の逆説

■ “MTBI” (mild traumatic brain injury)

全然“mild”なんてものではありません。破壊的です。おかげで私の人生はめちゃくちゃになりました。(50代女性)

周りの人が語り手の困難を軽視

■ “Normal” の影響

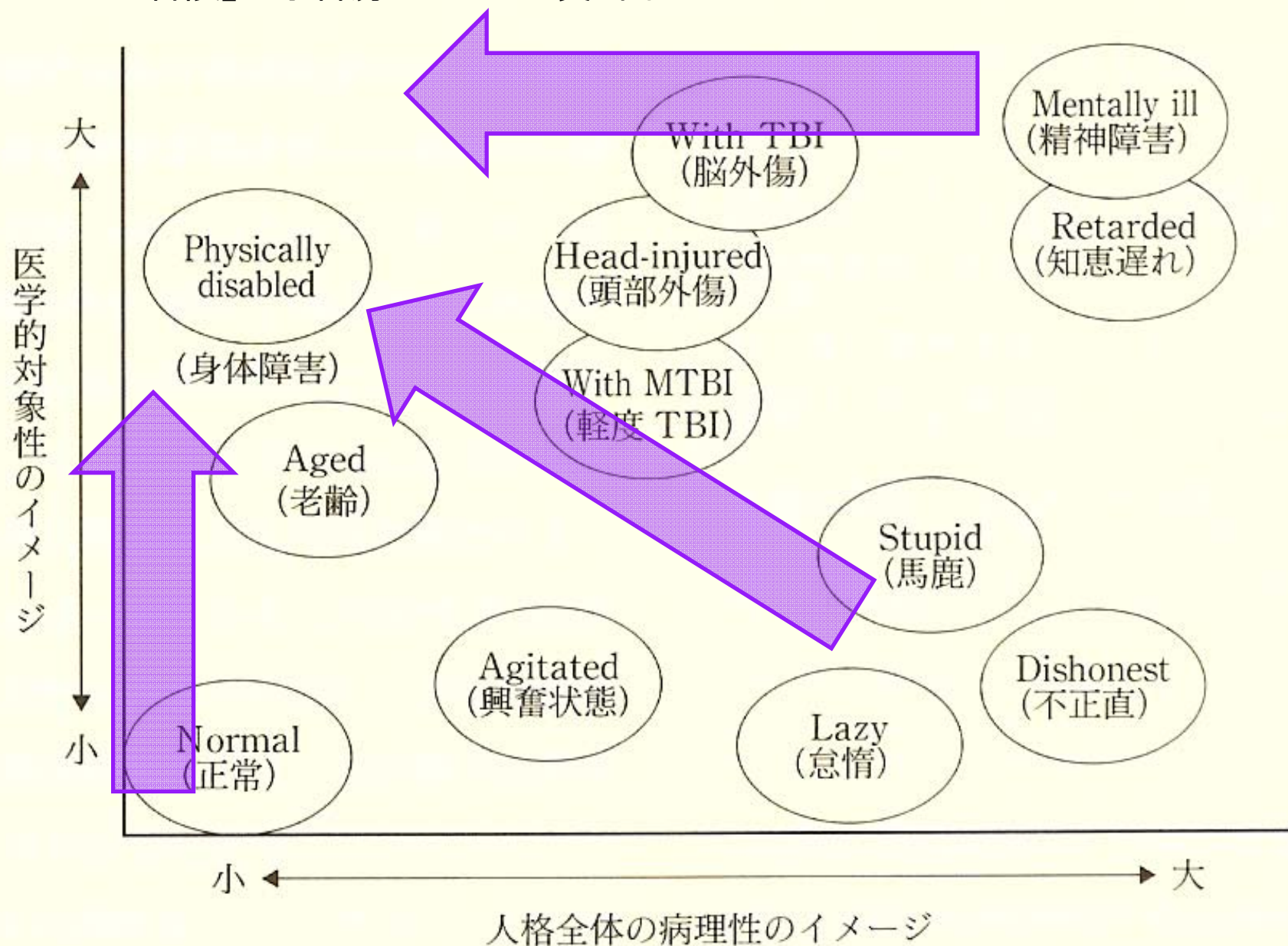
サービスからの排除

ポジティブな言葉の逆説

- “Normal”からの転換
→ “stupid”、“lazy”へ
(非病理的だが人格全体がネガティブな方向へ)

他人が私を“stupid”とみなすのと戦うのにうんざりしています。こんなことがありました。同僚が私のオフィスに入って来て、「あの問題の答えはまだ出てませんか？」と尋ねるのです。まだでした。私は、その問題を考えるために準備が終わっていただけ。(40代女性)

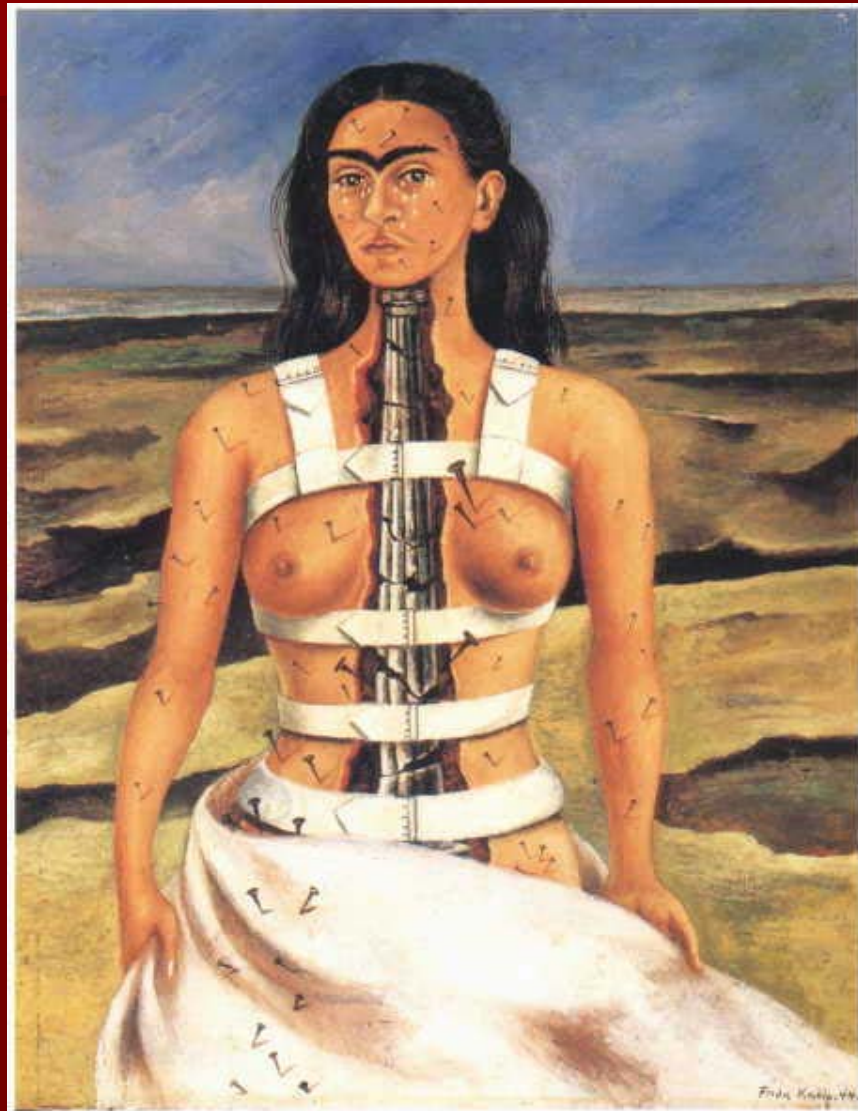
※ やまだようこ・サトウタツヤ・南博文 編『カタログ現場心理学—表現の冒険』金子書房 2001 50頁 図6-3



障害をもつ人の ライフストーリー研究の意義

- リハビリテーションなど臨床実践への寄与
同じ障害をもつ人を理解するためのモデル
よりきめ細かなサービスへ
- 障害をもつ人に対する共感の基礎
自分と同じような側面をもつ存在として理解しなおす
- 人間のより普遍的な面の探求
障害への姿勢から学べること

絵画に現れたライフストーリー



フリーダ・カーロ
「折れた背骨」

絵画に現れたライフストーリー

